

上中通信

令和6年度上湧別地区小中学校統一重点目標 「笑顔と学び合いのある学校」

学校だより8号

令和6年11月19日

発行：上湧別中学校

令和6年度 全国学力・学習状況調査結果について

令和6年4月18日、第3学年の生徒を対象とした全国学力・学習状況調査が実施されました。本校の調査結果の概要についてお知らせいたします。

本調査は、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、①全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図ること、②学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることを目的に行われるものです。

なお、調査結果はあくまで学力の特定の一部であり、教育活動の一側面ですので、ご了承ください。

◆教科に関する調査（結果概要）

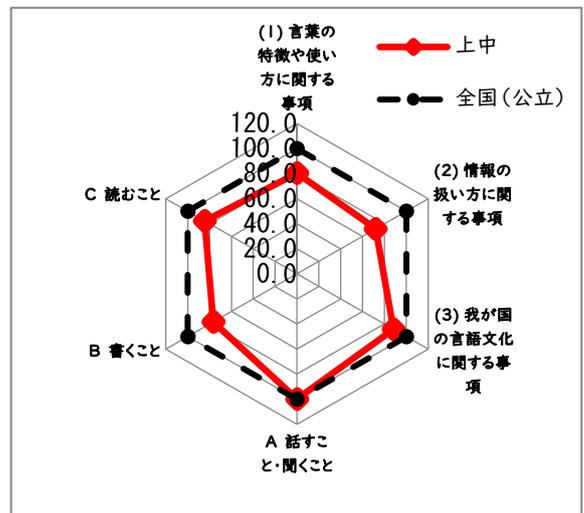
※グラフは、全国を100%としたときの本校の正答の割合を表しています。

【国語】

- ・必要に応じて質問しながら話の内容を捉えたり、資料を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように話したりすることを問う問題等で正答率が高い。
- ・目的に応じて必要な情報に着目して要約したり、自分の考えが伝わる文章になるように工夫したりすることに課題が見られる。

強みを活かし、弱みを克服するための具体的取組

- ・概略を理解するために文章全体の内容を短くまとめたり、情報を他者に伝えるために必要な部分を取り出してまとめたりする。
- ・用いる語句や表現が、文章の内容を伝えたり印象付けたりする上で、どのように働いているかを考えながら書き進めたり、伝えたいことが読み手に伝わるかを確かめて推敲したりする。

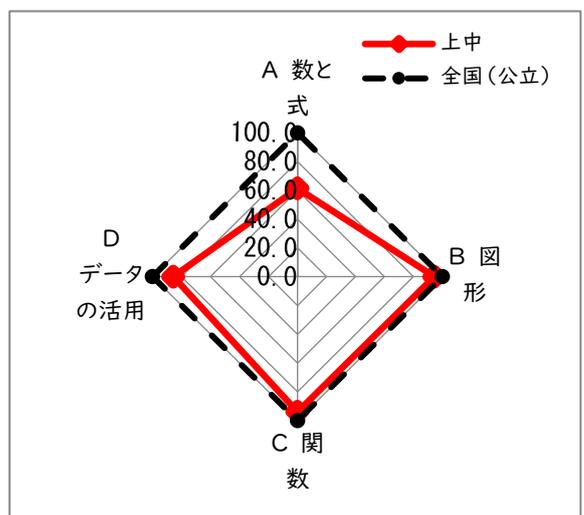


【数学】

- ・一次関数の式とグラフの特徴を関連付けて理解しているかを問う問題や、複数の箱ひげ図から、四分位範囲を比較し、読み取ることができるかを問う問題等で正答率が高い。
- ・等式を目的に応じて変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することについて課題が見られる。

強みを活かし、弱みを克服するための具体的取組

- ・事柄が一般的に成り立つ理由を説明するために、文字式や言葉を用いて根拠を表せるようにする。
- ・式をどのような形にすればよいか見通しをもち、その見通しに沿って式を変形する場面を設定する。



次頁に続く ⇒

❖ 生徒に対する質問紙調査（結果概要）

- ・朝食を食べていない生徒がやや多い。
- ・学校に行くのは楽しい、友達関係に満足している、普段の生活の中で幸せな気持ちになると答えた生徒が多い。一方、自分にはよいところがあると感じている生徒がやや少ない。
- ・将来の夢や目標をもっている生徒が多い。一方、地域や社会をよくするために何かしてみたいと考える生徒がやや少ない。
- ・授業で ICT を活用することで、友達と考えを共有したり比べたりしやすい、友達と協力しながら学習を進めやすいと感じている生徒が多い。
- ・家で計画を立てて勉強している生徒が少なく、学習時間が1時間未満の生徒が多い。

強みを活かし、弱みを克服するための具体的取組

- ・「学び合い」を取り入れた主体的・対話的で深い学びの授業を日常的に行う。
- ・放課後や長期休業等の学習支援による学習方法の指導や学習内容の定着を図る。
- ・ICT端末による協働的な学びの充実に向けて効果的な活用方法を研究する。
- ・日常生活や教育相談での傾聴、複数教員による日常的な観察などを通じて生徒一人一人のよさを認め、伸ばす指導を行う。

【保護者の皆様へのお願い】

生徒質問紙調査では、近年、家庭におけるゲーム等の時間が長く、学習の時間が短い傾向が見られています。本校では学び合いの授業づくりをとおして、生徒の主体的に学ぶ力や意欲を育ててまいりたいと思います。生徒が自律的に生活リズムを確立できるよう、ご家庭でもスマホや PC、ゲームの使い方、時間のルール等について話し合う機会を設けていただけましたら幸いです。

「学び合い」のある学び

湧別町教育委員会による「北海道大学との連携事業」で、本校は年に3回、北海道大学大学院の守屋淳教授に授業改善の指導を受けています。

先日、15日（金）に今年度2回目となる授業参観とご助言をいただきました



授業参観での学びの様子（1年家庭科）

本校では、「授業の方法をどのように改善するか」ではなく「**生徒の学びをどのように見とるか**」に着目した授業研究を行っています。

これは、授業のあり方を、教師から生徒への一方的な知識の伝達ではなく、**生徒自身が思考・判断し、表現しながら知識や技能を身に付けていく授業**に改善を進めるためです。

一人残らず全ての生徒が学びに向かい、自分自身の力で資質能力を獲得する力（学ぶ力）を育成することが私たち教師の使命です。その第一歩は、生徒の学びの姿を詳細に事実で語ることでできる教師の「見とり」です。

全国学力調査の結果は「学力の一部」であり、全てではありません。生徒の「学ぶ力」は、日々の授業や日常の生活、社会とのかかわりの中でこそ培われるものです。私たちは、生徒が**時間とともに成長する姿、様々な場面で見せる学びの姿**を常に見とり続け、「学ぶ力」の育成に結びつけていきたいと考えております。



日	曜	学 校 行 事	生徒会	日課	給食	部活	バ ス
1	日						
2	月	第2回QU	執行委員会	6	○	○	15:40 / 17:39
3	火	2年生二者面談		6	○	○	15:40 / 17:39
4	水	2年生二者面談		6	○	○	15:40 / 17:39
5	木	2年生二者面談、新篠津中交流		6	○	○	15:40 / 17:39
6	金		各種委員会	5	○	×	14:30 / 15:40
7	土						
8	日						
9	月	研修日、部活中止		5	○	×	14:30
10	火	1年生二者面談		6	○	○	15:40 / 17:39
11	水	1年生二者面談		6	○	○	15:40 / 17:39
12	木	1年生二者面談		6	○	○	15:40 / 17:39
13	金	スクールカウンセラー		6	○	○	15:40 / 17:39
14	土						
15	日						
16	月	職員会議		5	○	×	14:30
17	火			6	○	○	15:40 / 17:39
18	水			6	○	○	15:40 / 17:39
19	木			6	○	○	15:40 / 17:39
20	金			6	○	○	15:40 / 17:39
21	土						
22	日						
23	月	冬休み前集会、大掃除、壮行会		6	○	×	15:40
24	火	冬季休業↓ 学習会 (予定)					
25	水	学習会 (予定)					
26	木	学習会 (予定)					
27	金						
28	土	学校閉庁日					
29	日	学校閉庁日					
30	月	学校閉庁日					
31	火	学校閉庁日					

生徒・保護者の皆さんへ

心のホットライン



冬の厳しい寒さの中では、空気はきれいに澄み渡り夜見える景色も他の四季とは違い格別に良いものです。特に満天の星空の中に浮かぶオリオン座は別格で見とれていると寒さも忘れ、あっという間に時間が過ぎてしまいます。日々の忙しく疲れた生活の中で、「ほっとする時間」をみなさんは持っていますか？ストレス解消法は個人によって異なりますが、自然が与えてくれるエネルギーは我々に安らぎを与えてくれます。湧別という自然豊かな町に住むみなさん。星や海・川・山など壮大な自然に今一度目を向けてみてはどうでしょう。心の中が浄化される気がしますよ。

<ストロークとは...>

みなさん、ストロークという言葉に耳にしたことはありますか？ テニスをしている人は「ストローク」という言葉になじみがあるかもしれません。水泳やスケートなどでも用いますね。ちなみにテニスでは、ボールを打つことを言います。



心理学の一つの学派である『交流分析』においても、実は「ストローク」という言葉を用います。今回はその「ストローク」についてお話します。交流分析の場合は、「存在を認める働きかけ」といったニュアンスで用いられています。みなさんも幼少期には、スキン・シップや微笑みかけといったストロークを沢山受けてきたと思います。また、成長するにつれて言葉による働きかけ、ストロークが増えてきたことでしょうか。つまり、人と人とが関わる時、「ストローク」が交換されていると言えます。

ストロークには、受け取ると心地のよいポジティブ（肯定的）なストロークと、嫌な気分になるネガティブ（否定的）のストロークがあります。この「ストローク」理論の重要なところはストロークは「心の栄養素」として心の健康状態を維持していくために必要不可欠であり、人はポジティブなストロークの代わりにネガティブなストロークを求めてでも、ストロークが不足して「ストローク飢餓」の状態に陥ることを避けようとする。 という点です

たとえば、日常的にわざと人を怒らせるような発言や行為を繰り返すような人は、幼少期に周囲の大人から満足なポジティブストロークを得られず、代わりにネガティブストロークをもらうことで自らの「ストローク欲求」を満たしてきたのかもしれません。

ここで大事なことは他者にこの理論を当てはめるのみでなく、自分自身について活用することです。みなさんは普段どのようなストロークを取っていますか？うまいかない日が続くような時や体調がすぐれない時は、挨拶もできなかつたりすることも、もちろんあると思います。でも、時間が過ぎて心身が落ち着いてきたら、そこで少し自分で変えてみることも必要でしょう。

次の言葉（ストローク）は短いけれど、心に響く言葉です。みなさんは日常的に使っていますか？



「おはよう！」 「また明日！」 「ありがとう」 「ごめんね」
「助かったよ」 「どうしたの？」 「ゆっくり話を聴くよ」

どの言葉も相手の気持ちに心をはせた言葉です。北海道の方言である「どうも」や「なんも」などもとても素敵な言葉ですね。ポジティブなストロークを多く用いるとそれだけ自分にも返って来るとも言われています。みなさんも以上のことも頭に浮かべながら、今年を振り返ってみてくださいね。